

保	育	の	父	・	佐	竹	音	次	郎	に	学	ぶ	会	★	通	信
	音	次	郎	会	◆	I	N	F	O	◆	v	o	l	.	2	5

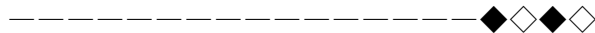
ホームページ：<https://otojiro.link>  
eメール：[info@otojiro.link](mailto:info@otojiro.link)  
取引銀行 幡多信用金庫 下田支店 普通預金 88502  
（名義）保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会 会長 中平菊美  
ゆうちょ銀行 振替口座 01650-8-43162  
（名義）保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会

気象統計の歴史上最も暑い夏がおわり、やっと秋になりました。音次郎の時代にも暑い夏があり、その事は読み物シリーズ4「日本一熱い男・音次郎の日本一暑い日」で触れましたが、それを思い起こせば「昔はよかった」とは言えない感があります。

実りの秋の季節、保育の父・佐竹音次郎に学ぶ会（通称：音次郎会）から会員の皆さまに会報（メールマガジン）をお届けします。

◆◇ INDEX ◇◇

- 【1】奉加帳一覧表データの更新
- 【2】奉加帳概要（2023年9月現在）
- 【3】史料読み解き学習会4の開催
- 【4】竹島小学校総合学習で訪問



【1】奉加帳一覧表データの更新

保育の父・佐竹音次郎の「鎌倉保育園 慈善書画会賛助 芳名簿」は2021年3月に音次郎会ホームページで公開されていきました。ただいま、なるべく実物に近い複製版（レプリカ）を制作中で、完成後は日誌のように関係各所へ贈呈したいと計画中です。

芳名簿を公開してから、読み解けない部分の解説をしてくださる方をネット上で募集しておりました。この頃、板垣退助研究家である公文豪氏のご協力により芳名簿の中の多くの人数を読み取りしたデータの提供を受けました。それを受けて事務局にて重複して登場する人物の洗い出しと、一覧表の更新に取り組みました。

2冊の奉加帳に記載されている人名は全部で652人です（第1回 459人、第4回 192人）。これまでに466人が解説できていました。今回、公文氏のデータを編入しつつ精査しながら一覧表を整備したところ、読み間違っている人物の指摘もあり、570人までが判明しました。残り82人が読むには難しい崩し字などで、その人物が誰なのかが判りません。

音次郎会では引き続き解説に協力してくださる方、御覧になって部分的に読めた方、人物名を読み間違っているのでは等の御指摘も含めて、お知らせ下さるようにご協力をお願いいたします。

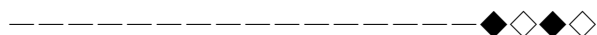
特に、第4回奉加帳には読めない人物が多く存在していますので、そちらを重点的に解説

していただければ助かります。

また今回、読み解けた人名を反映して奉加帳実写映像と、読み取り結果を左右で対比しながら見る事ができる様に工夫した、新しい一覧表をつくりました。今までの実写映像のみのファイルと読み解き結果の一覧表も更新して音次郎会ホームページ「研究材料」のページに保存しております。

いずれもページ数が多く、印刷して同封する事ができません。「インターネットでデータを取り出す事が難しいけれども、協力をしてもよい」とおっしゃる方には、印刷した物をお渡しする事も可能です。音次郎会へ御一報下さい。

この会報にはミックス版の奉加帳を見本に1枚ふろくします。



## 【2】奉加帳概要（2023年9月現在）

この2冊の奉加帳には延べ652人の名前が記されています。現代にも名前が通る著名な方はこの人々です。

板垣退助（伯爵、内務大臣、自由党総裁）	津田仙・梅子親子（農学者、津田塾大等創立）
内村鑑三（牧師、キリスト教神学者）	松方正義（第4・6代総理大臣）
渋沢栄一（第一国立銀行頭取、子爵）	横山大観（日本画家）
清浦奎吾（首相、枢密院議員、伯爵）	東郷平八郎（海軍大将・元帥、侯爵）
李 完用（大韓帝国の内閣総理大臣）	徳富蘇峰（猪一郎、思想家、矢島楫の甥）
犬養 毅（総理大臣）	元田 肇（第25代衆議院議長）
小室翠雲（日本画家）	釈 宗演（臨済宗僧侶、鎌倉円覚寺管長）
尾崎行雄（文相、法相、東京市長）	後藤新平（内相、東京市長、満鉄総裁、伯爵）

ここでは、読み解けている570人の範囲の中での話になりますが、改めて名簿を整理して気付いた点、注目すべき概要をお伝えします。いずれも、まだ読めていない人物が82人ありますので、統計やデータはこの先、少しずつ変化する可能性がある事を予め承知の上、ご覧下さい。

書の提供者：173人 画の提供者：295人 賛助者：182人

「賛助者」とは書画は寄付しないが、現金で寄付をしたり活動に同意したりする事を表明して下さった方々です。

出身都道府県別の人数は、

東京（江戸）：80人 高知県：28人 愛知県：20人 京都府：19人 鹿児島県：19人  
熊本県：17人 大阪府：16人 山口県：12人 以下、省略。

47都道府県とはならず、奈良県、和歌山県、広島県、沖縄県の方は居ませんでした。なお、ここで言うところの出身都道府県とは、その人が生まれた都道府県の事です。その後、活躍をされていた場所は別の場所で、音次郎が協力をお願いしているのですから、居住地は鎌倉や東京など、奉加帳をお願いに回れる範囲に住まわれていた方や、旅先で出会った方だと思われれます。今のようにインターネットも無く、クラウドファンディング（インターネットを使った募金活動）など出来るはずもなく、広告媒体と言え、せいぜい、新聞記事になった程度でしょう。

人口差と言う事もありますが、やはり東京出身の方が1番ですが、2番目に高知県出身者がランクインしているところは音次郎らしく、ふるさとの人脈を大切にした事を感じられます。

奉加帳に最も多く登場した人物は「野口小蘋」(のぐち・しょうひん)という女流画家です。この人は日本画家で、5回も奉加帳に名前が登場します。提供した枚数としては、毎回「若干」や「数葉」とあるので、1回5枚ずつだったとして25枚程度の日本画を提供した事になります。日外アソシエーツ刊行「明治大正人物事典Ⅱ文学・芸術・学術編」によれば、生年弘化4年(1847)1月11日～大正6年(1917)2月17日。出生は大坂難波。本名=野口親。専門は南画。略歴としては、父は漢方医松邨春岱。12歳頃より絵に専心し、慶応元年(1865年)京都の日根対山に師事、南画を学び花鳥山水を得意とした。明治4年上京し、10年酒造家野口正章と結婚。15年第1回内国絵画共進会、17年同第2回で共に褒状を受ける。22～26年華族女学校画学嘱託教授。26年シカゴ万博で褒状、28年内国勸業博覧会で妙技2等賞を受賞。また日本美術協会でも受賞を重ね、31年秋季展では「青緑山水図」が特別賞状、34年春季展で「秋草図」が金牌を受賞した。この間御用画も数多くつとめ、32年東伏見宮妃、35年常宮、周宮の画学教師となる。37年女性初の帝室技芸員となり、文展では第1回より審査員。奥原晴湖と共に当時の女流南画家の双璧とされた。

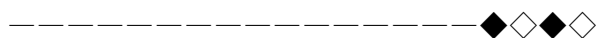
家族には夫=野口正章(酒造家)、甥=野口謙蔵(日本画家)が居ます。

最も多くの枚数を提供した人は「杉浦公寿」という人です。奉加帳には「繪畫千枚」と書かれてあります。つまり、絵画を1,000枚提供した事になります。ただし、多くの人が「書若干」や「画若干」あるいは「書若干枚」や「画若干枚」と書いていて、「若干枚」と書こうとして「千枚」とだけ書き間違えた事も考えられます。これは大変失礼な推測になりますが、書を1,000枚提供するならばともかく、絵画を1,000枚も書いて提供する事が可能なのか、疑問の余地があります。

ところで、この杉浦公寿さんはネットなどで調べてもヒットしません。千枚の絵画を提供した音次郎の絶大なる支援者だった可能性もあります。

もしかすれば数枚(若干枚)の書き間違いかも知れませんが、いずれにしましても、「杉浦公寿」という人物について情報をお持ちの方は、ぜひ、音次郎会までお知らせ下さい。

このように、奉加帳も参与した方の氏名の解読が進んでいきますと、大変興味深い事が浮かんできます。繰り返しになりますが、特に第4回奉加帳には読めない人物が多く存在しています。その中の1人でも、「誰なのか?」分かった方は、音次郎会まで、ぜひ、お知らせ下さい。



### 【3】史料読み解き学習会4の開催

読み解き学習会は1回目を高知城歴史博物館さんの指導の下、そして、2～3回目をどうか、こうにか、自習学習会として取り組んできました。毎回、毎回、新たな発見があり、

